

平成 25 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 24 年度実績 兼 平成 25 年度以降に係る計画)

【1枚目】

コード		51340002		部・課・係名等		コード1		02040200		政策体系上の位置付け		コード2		513004		予算科目		コード3		001030201			
事務事業名		ちびっこ広場管理運営事業										政策の柱		基3 健やかで笑顔あふれるまちづくり				会計		一般会計			
予算書の事業名		ちびっこ広場管理運営費										課名等		こども課				款		3. 民生費			
事業期間		開始年度		昭和47年度以前		終了年度		当面継続		業務分類		1. 施設管理				項		2. 児童福祉費					
実施計画(H25～H27)への記載		無		実施計画(H26～H28)における区分				実施計画書に記載しない				係名等		保育係				区		分		なし	
実施方法		○ 1. 指定管理者代行		○ 2. アウトソーシング		○ 3. 負担金・補助金		● 4. 市直営		記入者氏名		宮野 浩一				基本事業名		子どもの活動の場の充実					
電話番号		0765-23-1079																					

◆事業概要（どのような事業か）				◆実施計画への記載予定事業内容				単位	上段・計画：下段・実績		計画			
市内の各町内に設置されたちびっこ広場の把握と広場内に設置された遊具の点検・補修・撤去を行う。				H26					23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
				H27										
				H28										
対象	<この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など> ちびっこ広場			対象指標	① ちびっこ広場の数		箇所	34	34	34	33	33	33	
					②									
					③									
手段	<平成24年度における事業見直しの有無>		<平成24年度の活動及び見直し内容>		活動指標	① 遊具点検回数		回	1	1	1	1	1	
	見直し無		・ちびっこ広場の遊具等の点検、補修、撤去。 ・吉島ちびっこ広場の公衆便所等維持管理。			② 遊具補修、撤去件数		件	3	3	3	3	3	
						③ 公衆便所点検、清掃回数		回	12	12	12	0	0	0
意図	<この事務事業によって、対象をどのように変えるのか> ・ちびっこ広場の遊具等の安全が確保される。 ・吉島ちびっこ広場の公衆便所が良好な状態で利用される。			成果指標	① 遊具の破損に対して補修・撤去した割合（補修・撤去遊具等/破損遊具）		%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
					② 遊具による事故		件	0	0	0	0	0	0	
					③									
その結果	<施策の目指すがた> 拠点施設などが充実し、柔軟で質の高い保育サービスや、子育て支援の情報が提供されています。			↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入										
◆この事務事業開始のきっかけとこれまでの事務事業見直しの経緯 自家用車の普及に伴い、各地区の子ども達が外で遊ぶ際の安全性が確保されなくなり、安全で自由に遊ぶことができる場所の提供が必要になったことから事業を開始。 平成20年度に設置及び管理運営要綱を制定し、ちびっこ広場の管理者をその地区の区長とした。				費 目		実績		計画						
						23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度			
				財源内訳	(1) 国・県支出金		(千円)	0	0	0	0	0	0	
					(2) 地方債		(千円)	0	0	0	0	0	0	
(3) その他(使用料・手数料等)		(千円)	12		12	12	12	12	12					
(4) 一般財源		(千円)	453		432	497	1,497	497	497					
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化（法改正、規制緩和、社会情勢の変化など） ・遊具等の老朽化による補修件数の増加。 ・各地区からの遊具等の安全性確保の要望の増加。				予算(決算)額((1)～(4)の合計)		(千円)	465	444	509	1,509	509	509		
				支出内訳	(1) 需用費		(千円)	227	220	231	231	231	231	
					(2) 委託料		(千円)	231	217	271	271	271	271	
					(3) 工事請負費		(千円)	0	0	0	1,000	0	0	
(4) 負担金補助及び交付金		(千円)	0		0	0	0	0	0					
◆市民や議会などからの要望・意見（担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入） ・各地区における少子化や若年層の減少、住民の地元意識の低下に伴い、ちびっこ広場の利用の減少及び日常点検等の適正な管理運営が困難になってきており、市による完全直営化を望む声がある（24年度に吉島8区より、吉島ちびっこ広場の廃止届が提出された。） ・ちびっこ広場として市で対応すべき範囲や過去からの経緯が不明瞭のなか、地元町内から設置遊具以外で広場敷地のフェンス等の老朽化に伴う修繕要望が多い。				(5) その他		(千円)	7	7	7	7	7	7		
				A. 予算(決算)額((1)～(5)の合計)		(千円)	465	444	509	1,509	509	509		
				①事務事業に携わる正規職員数		(人)	2	2	2	2	2	2		
				②事務事業の年間所要時間		(時間)	200	200	200	200	200	200		
◆市民と行政の協働状況 ● 協働している ○ 協働可能だが未実施 ○ 協働になじまない				B. 人件費（②×人件費単価/千円）		(千円)	867	880	880	880	880	880		
				事務事業に係る総費用（A+B）		(千円)	1,332	1,324	1,389	2,389	1,389	1,389		
				（参考）人件費単価		(円@時間)	4,336	4,399	4,400	4,400	4,400	4,400		

【目的妥当性の評価】

1. 基本事業との直結度 (事務事業の意図が基本事業の意図にどのくらい直結しているか、その理由も記載)			
☐ 直結度大 ☐ 直結度中 ☒ 直結度小	説明	子ども達の遊びに対する意識やニーズの変化から、ちびっこ広場の利用者が低下していると考えられる。	
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)			
☐ 法令などにより市による実施が義務付けられている ☐ 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) なため、市による実施が妥当 ☐ 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 ☒ 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 ☐ 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当			
根拠法令等を記入	魚津市ちびっこ広場の設置及び管理運営要綱	事務の区分	自治事務
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合その理由と内容を説明、できない理由も説明)			
なし	説明	現状の対象と意図は適切であり、目的見直しの余地なし。	

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明、できない理由も説明) ※成果指標の計画と実績との比較に基づき記入			
なし	説明	成果実績	中位
成果向上の余地なし。			
5. 連携すること、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明、できない理由も説明)			
なし	説明	都市公園事業 (都市計画課) 遊具等の修繕・点検について、一括して発注するほうが人件費や運搬費等のコストが下がり、経費削減につながると考えられる。	

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)			
なし	説明	ちびっこ広場の遊具の老朽化から、施設維持のため継続的に修繕を要するが、ちびっこ広場の必要性自体を見直し、地元と協議のうえニーズの低い広場の廃止や遊具の撤去をすることにより、一時的な撤去費用の投資で将来的には遊具の事故防止とともに修繕費の節減を図ることができるものと考えられる。	
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)			
なし	説明	現在、担当課で実施している遊具等の実地点検を業者に委託することは可能だが、経費の増加が見込まれる。また、遊具等の修繕・撤去は業者に発注しており、現状からの人件費の削減は困難である。	

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)			
なし	説明	ちびっこ広場の清掃や除草等の日常的な維持管理にかかる経費は、地区や町内会が負担している。既存の遊具設置者が曖昧 (一部市の備品として登録有) で、遊具修繕・撤去にかかる経費について、地区や町内会に負担を求めるのは困難であり、市で対応せざるを得ない状況である。	
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)			
低い	説明	ちびっこ広場の清掃や除草等の日常的な維持管理にかかる経費は、地区や町内会が負担している。	

★ 評価結果の総括と今後の方向性			
(1) 評価結果の総括			
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 目的廃止又は再設定の余地あり	
② 有効性	☒ 適切	☐ 成果向上の余地あり	
③ 効率性	☒ 適切	☐ コスト削減の余地あり	
④ 公平性	☒ 適切	☐ 受益者負担の適正化の余地あり	
(2) 今後の事務事業の方向性			
☒ 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施		年度	
☐ 終了 ☐ 廃止 ☐ 休止			
☐ 他の事務事業と統合又は連携			
☐ 目的見直し			
☐ 事務事業のやり方改善			

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)			コストと成果の方向性
実施予定時期	平成26年度	必要性の低いちびっこ広場の廃止を検討。老朽化の激しい遊具・破損遊具の撤去を実施。吉島ちびっこ広場の他の用途への転用。	コストの方向性
	中・長期的 (～5年間)	継続。	維持
			成果の方向性
			維持

★一次評価 (課長総括評価)	
少子化の進展により若年層の人口が減少し、広場の利用が激減しているため、高齢者も含めた地域活動の場として利用できないか各地域と協議する必要があると思われる。	二次評価の要否
	不要
★二次評価 (経営戦略会議・部会)	

平成 25 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 24 年度実績 兼 平成 25 年度以降に係る計画)

【1枚目】

事業コード	51340003
事務事業名	児童センター運営事業
予算書の事業名	児童センター運営費
事業期間	開始年度 昭和57年度 終了年度 当面継続 業務分類 1. 施設管理
実施計画(H25～H27)への記載	有(債務) 実施計画(H26～H28)における区分 債務・継続・変更無
実施方法	☒ 1. 指定管理者代行 ☐ 2. アウトソーシング ☐ 3. 負担金・補助金 ☐ 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	02040200
部名等	民生部	
課名等	こども課	
係名等	保育係	
記入者氏名	村崎 博	
電話番号	0765-23-1079	

政策体系上の位置付け	コード2	513004
政策の柱	基3 健やかで笑顔あふれるまちづくり	
政策名	1 総合的な子育て支援対策の推進	
施策名	3. 子育て環境づくりの推進	
区分	なし	
基本事業名	子どもの活動の場の充実	

予算科目	コード3	001030206
会計	一般会計	
款	3. 民生費	
項	2. 児童福祉費	
目	6. 児童センター費	

◆事業概要（どのような事業か）			◆実施計画への記載予定事業内容			単位	上段・計画：下段・実績		計画				
魚津市児童センター運営管理（指定管理者：魚津市社会福祉協議会） こぼと児童センター（大町）、かもめ児童センター（経田）、つばめ児童センター（本江）、ひばり児童センター（吉島）、すずめ児童センター（道下）の5館の運営事業。 市内、特に児童センターを取り巻く地域に居住する幼児を含む小・中学生が健康の増進を図り情緒豊かに過ごせるための場の整備。			H26	施設管理運営(指定管理再指定) つばめ児童センター空調設備改修等工事			23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
			H27	施設管理運営									
			H28	施設管理運営									
対象	＜この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など＞ 児童センターの利用者			対象指標	① 児童センターの数	箇所	5 5	5 5	5	5	5	5	
					②								
					③								
手段	＜平成24年度における事業見直しの有無＞ 見直し無		＜平成24年度の活動及び見直し内容＞ 市内全児童センター5館について、魚津市社会福祉協議会を指定管理者とし、運営体制と利用環境の充実を図った。なお、事業費が一般財源化された。		活動指標	① 児童センターを利用した延べ人数	人	81,000 78,127	81,000 83,801	80,000	79,000	100,000	100,000
	＜平成25年度の主な活動内容＞ 市内全児童センター5館について、魚津市社会福祉協議会を指定管理者とし、運営体制と利用環境の充実を図る。			②									
				③									
意図	＜この事務事業によって、対象をどのように変えるのか＞ 子育て支援や地域における幼児と親との交流の場の確保など児童センターの機能を充実させるための運営方法の改善や施設の整備などを図り児童の健全育成に資する。			成果指標	① 利用者の増加率（前年度を100とする）	%	100.0 92.1	100.3 107.3	100.0	100.0	100.0	100.0	
					②								
					③								
その結果	＜施策の目指すがた＞ 若い世代が安心して楽しく子どもを生み、育てられ、地域全体で子育て支援が行われています。 拠点施設などが充実し、柔軟で質の高い保育サービスや、子育て支援の情報が提供されています。			↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入									
◆この事務事業開始のきっかけとこれまでの事務事業見直しの経緯 地域の児童に健全な環境を与え、その健康を増進し情操を豊かにするとともに、子ども会等地域組織活動の育成及び助長を図る等を目的とする。また、地域の中における子ども同士のふれあいを通し豊かな情操を養う支援をする。				費 目		実績		計画					
						23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
財源内訳			(1)国・県支出金	(千円)	12,295	0	7,680	8,180	7,680	7,680			
			(2)地方債	(千円)	0	0	0	0	0	0			
			(3)その他(使用料・手数料等)	(千円)	6	6	5	5	5	5			
			(4)一般財源	(千円)	44,932	52,836	47,920	49,994	46,634	47,557			
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化（法改正、規制緩和、社会情勢の変化など） 子育て支援施策の推進により、昭和57年のこぼと児童センター開館をはじめとし、現在5館を運営。				予算(決算)額(1)～(4)の合計		(千円)	57,233	52,842	55,605	58,179	54,319	55,242	
支出内訳			(1)需用費	(千円)	119	0	260	300	300	300			
			(2)委託料	(千円)	50,220	50,720	51,220	51,879	52,019	52,942			
			(3)工事請負費	(千円)	910	1,113	3,000	5,000	1,000	1,000			
			(4)負担金補助及び交付金	(千円)	0	0	0	0	0	0			
◆県内他市の実施状況				(5)その他		(千円)	5,984	1,009	1,125	1,000	1,000	1,000	
● 把握している ○ 把握していない		➡	◆把握している内容又は把握していない理由の記入欄 県内各市児童センター設置状況。		A. 予算(決算)額(1)～(5)の合計		(千円)	57,233	52,842	55,605	58,179	54,319	55,242
					①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	2	2	2		
◆市民と行政の協働状況				◆選択した協働状況の内容又は理由の記入欄 指定管理者へ運営業務を委託している事業であるため。		②事務事業の年間所要時間	(時間)	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
○ 協働している ○ 協働可能だが未実施 ● 協働になじまない		➡			B. 人件費（②×人件費単価/千円）	(千円)	4,336	4,399	4,400	4,400	4,400	4,400	
					事務事業に係る総費用（A+B）	(千円)	61,569	57,241	60,005	62,579	58,719	59,642	
				(参考) 人件費単価	(円@時間)	4,336	4,399	4,400	4,400	4,400	4,400	4,400	

【目的妥当性の評価】

1. 基本事業との直結度 (事務事業の意図が基本事業の意図にどのくらい直結しているか、その理由も記載)			
☒ 直結度大 ☐ 直結度中 ☐ 直結度小	説明	児童に健全な遊びを与え、児童の健康を増進し情操を豊かにするとともに、地域の子育て支援施設として施策に結びついている。	
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)			
☐ 法令などにより市による実施が義務付けられている			
☒ 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) なため、市による実施が妥当			
☐ 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当			
☐ 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当			
☐ 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当			
根拠法令等を記入		事務の区分	自治事務
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合その理由と内容を説明、できない理由も説明)			
なし	説明	現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。	

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明、できない理由も説明) ※成果指標の計画と実績との比較に基づき記入			
なし	説明	成果実績	中位
成果向上の余地なし。			
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明、できない理由も説明)			
あり	説明	児童館型地域子育て支援センター事業と連携することで、より効果が高まる。	

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)			
なし	説明	指定管理者制度を導入しており、これ以上の削減は難しい。	
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)			
なし	説明	指定管理者制度を導入しており、これ以上の削減は難しい。	

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)			
なし	説明	事業運営 (工作教室等) に係る経費を見直し、受益相当の負担を検討する余地がある。	
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)			
低い	説明	事業運営 (工作教室等) に係る経費を見直し、受益相当の負担を検討する余地がある。	

★ 評価結果の総括と今後の方向性			
(1) 評価結果の総括			
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 目的廃止又は再設定の余地あり	
② 有効性	☒ 適切	☐ 成果向上の余地あり	
③ 効率性	☒ 適切	☐ コスト削減の余地あり	
④ 公平性	☒ 適切	☐ 受益者負担の適正化の余地あり	
(2) 今後の事務事業の方向性			
☐ 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施			年度
☐ 終了 ☐ 廃止 ☐ 休止			
☒ 他の事務事業と統合又は連携			
☐ 目的見直し			
☐ 事務事業のやり方改善			

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)			コストと成果の方向性
実施予定時期	平成26年度	優秀な専門スタッフの確保。 26年度から31年度までの指定管理者を再指定。 老朽化したつばめ児童センターの空調設備の改修。	コストの方向性
	中・長期的 (～5年間)	優秀な専門スタッフの確保。	成果の方向性
			維持
			維持

★一次評価 (課長総括評価)	
地域における子育て支援の拠点として、他の子育て支援施設や団体と連携し、機能の充実に努めることが必要と思われる。	二次評価の要否
	不要

★二次評価 (経営戦略会議・部会)	